

アカイカ速報

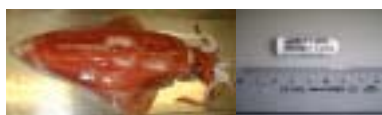
- H16 Vol.7 (拡大版) アカイカの遊泳水深、水温の記録

平成17年1月11日 鳥取県栽培漁業センター

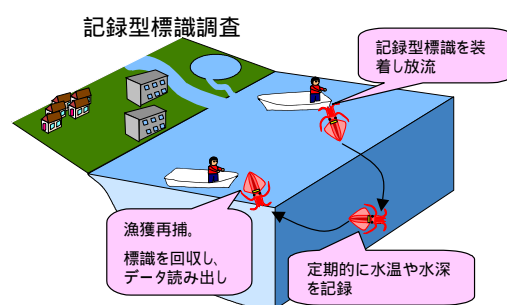
記録型標識を着けたアカイカが再捕され、非常に貴重なデータが得られました。

調査の概要

10月中旬から11月上旬に、水温と水深を1~5分間隔で記録できる標識(以下記録型標識と略す)を20個体のアカイカに装着し、鳥取県沖から放流しました。12/18に、そのうちの一個体が富山県の定置網で再捕され(胴長53cm)、このイカの35日間に及ぶ遊泳水深と水温のデータが得られました。



(注)写真のアカイカは見本で、再捕されたアカイカとは異なります。



結果

結果を2ページ(水深)・3ページ(水温)のグラフに示します。たった1個体ではありますが、35日間の水温や水深の軌跡から、今までは知られていなかった多くの事実を知ることが出来ました。

時間に正確な行動パターン

昼間、深い層を遊泳していたアカイカは、PM6:00前後に浮上し、夜間は浅い層を遊泳していました。AM6:00前後になると再び深い層へ潜行する傾向がありました。アカイカの遊泳水深には実に正確な日周期性が見られ、この鉛直的な移動は正確に毎日繰り返されていました。この日周期的な動きは何に対応しているのか今後分析を進めて行きたいと考えていますが、やはり日の出と日入りに対応している可能性が高いのではないかと考えています。

昼間の遊泳水深は意外と深い

昼間の遊泳水深は実に幅広く、変動も大きい傾向がありました。これまで、アカイカの昼間の主な遊泳水深は100m前後と考えられてきたので、鳥取県の漁業者が使っている樽流し(沖操業)の道糸の長さも100mが主流でした。しかしながら、日によってはそれより深い150m前後の水深を主に遊泳していることもありました。また、瞬間的ではありますが200mより深い層へ潜行することもあるようです。

夜間は表層付近で遊泳

夜間は昼間に比べ浅い水深で遊泳する傾向がありました。日によっては50m前後の層を遊泳したり、瞬間的に深い層へ潜行することもありましたが、主に水深10mより浅い層を遊泳する傾向が強く見られました。

非常に広い適応範囲

アカイカは暖海性の生き物とされていますが、その経験水温は20から5以下までおよんでいました。水温に対する適応範囲はかなり広いようで、水温10の低水温域に数時間滞在することも可能なようです。

また、急激な水深変化、水温変化にも耐えられるようで、5分以内の間に水深が100m以上、水温が10以上変化することもしばしば認められました。

今回は速報として記録型標識から得られた結果をそのままお伝えしました。現在、海洋環境データ、気象データなどと照らし合わせ、様々な角度からデータを検討、吟味しています。今後より詳細に解析し、改めて結果を紹介させていただきます

図1 アカイカの35日間の遊泳水深記録

(横軸は時間、縦軸は水深。背景ピンクは昼間、背景ブルーは夜間を示す。)

水深
(m)

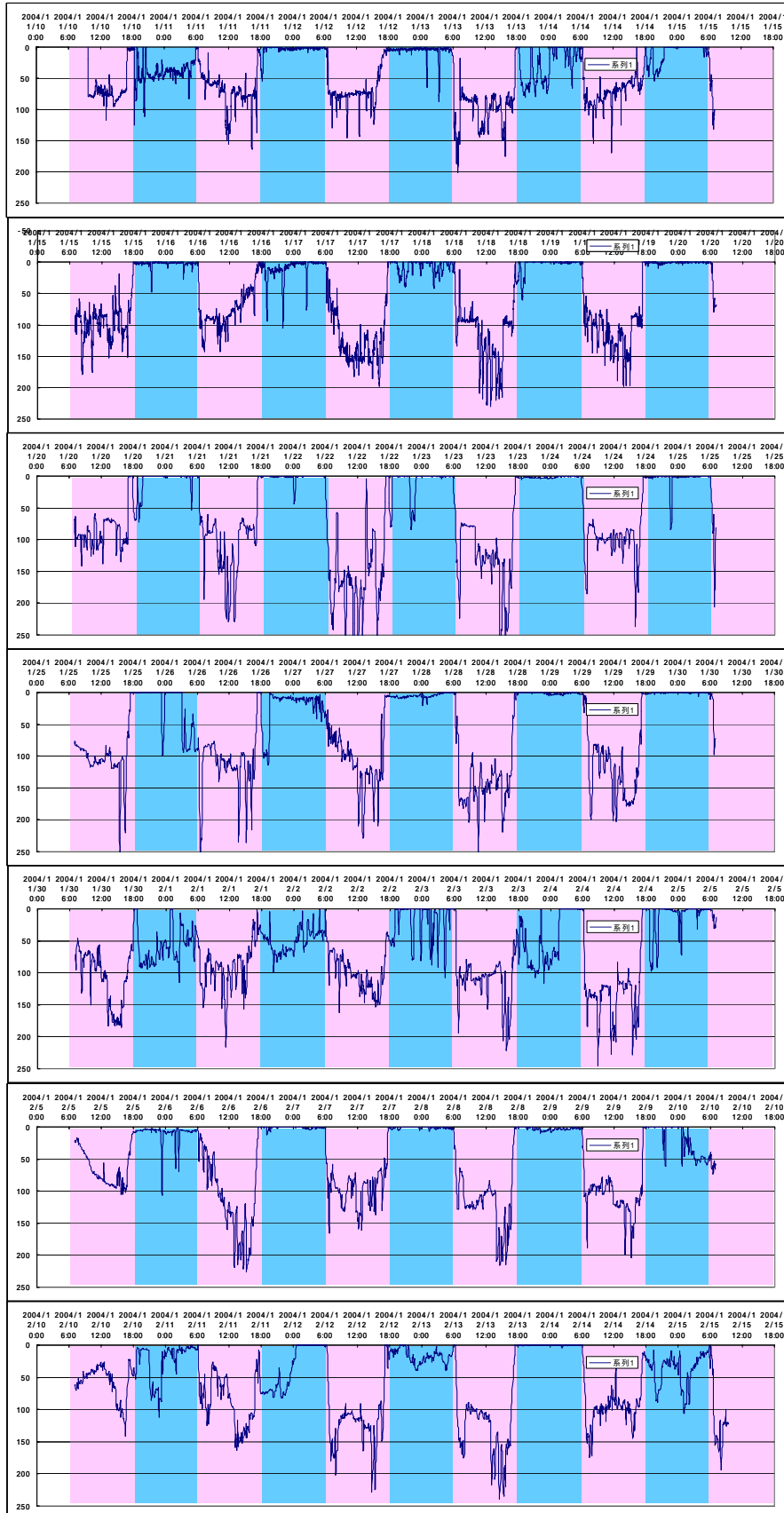


図2 アカイカの35日間の遊泳水温記録

(横軸は時間、縦軸は水温。背景ピンクは昼間、背景ブルーは夜間を示す。)

水温
()

